

この、演習1・2のシートは、リーフレットを活用して研修を展開していく際の流れを、例として示してあります。「※印」で書き込んである部分は、研修を担う先生への補助説明です。学校の実態や研修内容に照らし合わせながら、ご活用ください。

【演習1】

(ねらい)

障害がある人の日常生活を送る上での困難さを自分の事としてイメージしながら、自分の力を発揮するための適切な支援が、困難さの軽減につながる事を理解する。

(演習1-①)

もし、あなたが()時、どのような困難さが想定されますか？

※ここでは、障害がある状態や状況を、自分事として想像していくことで研修を受ける先生の視点や考えを広げます。

※障害の特性や場所、状況、対象年齢は、研修の内容によって研修を担う先生が設定してください。

例 (聴覚に障害があり、ショッピングモールに出かけた)時 など

(演習1-②)

困った事に対して、あなたはどのような支援があると、困難さが軽減できますか？

(演習1-③)

演習1-①、演習1-②について、共有しましょう。

【演習2】

(ねらい)

クラスや日常生活の中で、自分が気になる子ども（障害特性が背景にあると思われる子ども）をイメージし、何に困っているか、どのような支援をする事がその子どもの力を発揮する事に繋がるか考え、困っている子ども達の理解や支援の視点を広げる。

(演習2-①)

担任をしている(または、学年にいる) 気になる子ども(障害特性が背景にあると思われる子ども)を想像した時、その子どものどのようなところが気になりますか？

※まずは、先生の気づきに視点をあてます。研修を受ける先生の様子をみて、あまり記入ができていないようだったら、日頃の教育活動の中で、少しでも気になることを挙げてもらうよう促したり、場合によっては、ペアワークなどにして考えてもらっても良いでしょう。

※この演習は、特別支援教育の対象となる障害種をテーマにしたリーフレットを活用した演習なので、気になる子どもをイメージしてもらうときは、背景に障害特性があると思われる子どもをイメージしてもらうよう、提示の仕方を意識します。

(講義1)

※リーフレット Vol.1の8つの障害種について説明し、気になっていることが何であるのかの参考にします。

※8つの障害の中でも重複して障害がある場合も考えられるため、必要に応じて複数の障害について説明をしたり、重複障害についても触れましょう。

※演習2-①の前に、講義1を行っても良いです。学校や、研修を受ける先生の実態によっては、障害特性のイメージが持ちにくく、演習2-①が進まない場合なども考えられるため、演習と講義の順番を入れ替えて行いましょう。

(演習2-②)

演習2-①で想像した子どもはどのような事に困っていますか？子どもの視点に立って考えてみましょう。

※子どもの困りには講義1で説明したような障害特性があり、みんなと同じようにやりたくてもできない、困っている子どもというところに視点を向けます。(日常生活場面、集団活動場面、学習場面 など)

※演習2-①と同様、場合によってはペアワークなどで考えても良いでしょう。

(講義2)

※障害特性や支援内容をさらに深める資料を用意し、説明します。リーフレットの関連情報リストをご活用ください。学校や、研修を受ける先生の実態によっては、具体のイメージをしやすくように事例などを扱っても良いでしょう。

(演習2-③)

演習2-②で想像した子どもに対して、どのような支援があると子どもの力が発揮できるようになるでしょうか？

※具体的な支援の策を考えます。(日常生活場面、集団活動場面、学習場面 など)

※演習2-①と同様、場合によってはペアワークなどで考えても良いでしょう。

(演習2-④)

子どもが困っている事への支援策について共有しましょう。

※ペアワークや、研修会場全体で考えたことを共有できるようにします。演習2-③の取り組みの様子を見ながら、研修を受ける先生の視点が広がるような共有の方法を意識しましょう。